

令和7年度 出雲サンホーム地域連携推進会議 議事録

日時：令和8年1月28日（水）10：00～11：50

場所：出雲サンホーム会議室

出席者：赤木様（地域代表 神西コミュニティセンター センター長）、砂田様（出雲市役所 福祉推進課）、神村様（入所者家族）、山本様（入所者家族）、錦織様（入所者）
浅津施設長、長廻課長、浅津主任（サービス管理責任者）、足立（理学療法士）

会議内容

1. 開会の挨拶（浅津施設長）

今年度から初めての開催となる地域連携推進会議の目的について説明

2. 構成員紹介

地域・ご利用者・ご家族・行政担当者計5名の地域連携推進員と事務局側4名の自己紹介

3. 施設概要・事業等の紹介

パワーポイント・資料を基に報告・説明

1) 概要等

- ① 社会福祉法人恵寿会・出雲サンホームの沿革・事業内容の説明
- ② 理念・基本方針を説明
- ③ 利用者の状況

・開設から40年が経過。現在は定員の60名満床で、年齢層も幅広く最高齢者は90代である。

2) ご利用者の生活の様子

① 1日の生活の様子

・1日の生活の流れを説明。食事・入浴・リハビリなど決まった時間はあるが個別支援計画に基づき、それぞれのペースで過ごされている。

② 生活環境

・昨年、改修工事が完了しご利用者の居室や生活スペースは1階に集約した。居室は個室、2人部屋、3人部屋、4人部屋がある。

③ 日中活動

・ご利用者の希望を把握しながら、創作・スポーツ・クラブ活動・外出などの活動機会を提供している。最近はボランティアの方にも来ていただきボッチャに力を入れている。公式の用具も家族会に協賛いただき購入した。

・昨年、改修前の訓練室のスペースにシアタールームを整備した。大きな画面に4台のスピ

ーカーを設置し、本格的な環境でスケジュールを作成し映画や音楽等を鑑賞し楽しませられている。

・ご利用者の買い物手段としては、外出が難しい方もおられ定期的に移動販売が来所され利用されている。

3) 職員の状況等

・勤務している職員の職種や年齢・勤続年数の構成などグラフを用いて説明を行った。

・介護職、看護師、管理栄養士、セラピスト（理学療法士・作業療法士）等多職種が連携を図りながらご利用者の支援に当たっている。

・職員の教育・育成としては、エルダー制度を導入。エルダー制度の目的や役割などの説明を行った。

・新職員育成カリキュラムや現任職員の研修、腰痛予防やヨガ研修など年間でスケジュールを立て取り組んでいる。

・ICTの活用について、見守りシステムの利用や職員の連絡手段としてインカムを使用し業務の省力化と効率化を図っている。

4) 地域交流・地域貢献

①地域交流

・納涼会やクリスマス会などを通して、他事業所や学校・地域の団体等と交流の機会がある。

・昨年は、地元の神西地区のサロンに参加し、看護師・管理栄養士・理学療法士を中心に健康についての講義やクイズなどの活動を行った。

②地域貢献

・地元の高校生を対象とした介護教室や夏休みを利用し、こども福祉教室などを実施し、介護や福祉への興味や理解が深まるような活動に力を入れている。

・法人としてボランティアの担当を設置し、地元のまつりや文化祭などで大判焼きを作成・販売する機会がある。

5) 権利擁護

・職員の倫理規定・行動指針を示し、職員一人ひとりの人権意識や理解が深まるよう研修や定期的に自己を振り返る機会を設け取り組んでいる。

6) 防災対策

・1月6日に島根・鳥取県を中心に発生した地震時の状況や対応について説明を行った。訓練は定期的に行っているが、実際の地震を体験すると課題等も出てきたので、職員間で共有しながら次に活かせるように取り組んでいきたい。(事業継続計画についても説明)

4. 施設見学

・居室、廊下、トイレ、浴室、職員休憩室、シアタールーム等館内を回り、器具、設備も説明を

しながら施設見学を行った。

居室…部屋によっては、天井リフターを設置。

トイレ…身体状況に応じて洋式・座敷トイレを各エリアに設置している。一部のトイレにもリフターを設置。

浴室…2種類の機械浴（ストレッチャー・チェアインバス）を使用。ご利用者は週2回の入浴に対応し、水曜日以外は浴室を使用している。

通所（在宅の生活介護ご利用者）スペース…感染症対応等も考慮し、入所ご利用者と異なるエリアで受け入れを行っている。（行事等によっては一緒に参加される）

短期入所事業もこのエリアを中心に受け入れを行っている。

5. 意見交換（見学を終えて）

○見学者の感想・意見等

- ・改修前の環境を知っているが、見違えるほどきれいな環境になり喜んでいる。
- ・施設内にシアタールームがある事に驚いた。ご利用者の普段の生活で使用されるのは素晴らしいことだと思う。この設備は、他の活用方法もあると思う。

○質問

- ・災害の想定について、出雲サンホームは原発事故を想定された施設かどうか。
⇒原発事故が起きた際の、避難指示が指定された施設ではない。地震など大規模な災害が生じた場合は、事業継続計画に基づき対応する。

- ・同じ神西地区にある障害者の入所施設では、近くの住人が施設側から火事などがあった場合などの避難協力の委託を受けている。この地域はどうか。

⇒以前は、夜間訓練の避難訓練では、町内の方に参加してもらったり、緊急連絡網なども整備していた。現在は、町内の方へ訓練等には参加していただいているが、対応については確認する。

- ・夜間の職員体制は3名で少ないが、緊急時はどうなるのか。

⇒災害などが起こった場合は、役職職員へ連絡や情報が届くような仕組みになっている。また、職員のメールシステムがあり、全体で情報を共有し対応できるようになる。

6. まとめ

今年度初めて会議を開催した。地域と施設を結ぶせっかくの機会なので、この会議を活用しご利用者へのサービスの質の向上や地域との関係づくり図っていききたい。出雲サンホームは、サンSUNまつりという大きな企画をしていたが、近年コロナ禍や夏の高温の影響もあり、同規模の行事が出来ていない。今回、施設の環境を見ていただき、施設の機能など地域の方への開放や企画などを実現していききたいので今後も継続して意見を聞かせていただきたい。